

湖都通信

看護学科版

05

Coto Tsushin
[Nursing subject Version]

2019. 3. 1

滋賀医科大学同窓会「湖医会」



CONTENT

特集：看護学科1期生の卒後20年同期会	和田恵子・高城智圭・出村なつみ 今本喜久子・水野正之・浅野美礼・小山智史	2
会員からのたより	清水恵理子・吉村韶子・福家妙子・木村由梨・角川愛理・小林満智子	6
総会・支部会（滋賀支部）	河原めぐみ	9
看護学科交流懇談会	立岡弓子・船富奈々・横田祐子	10
キャンパスイベント	湖医会賞受賞記念講演会 ほか	12
事務局から	総会議事録 ほか	14

特集

看護学科1期生の卒後20年同期会



充実している1期生に会えました！



和田 恵子 (看1期)

卒後20年同期会。恩師の先生方も多く参加されると聞き、懐かしい気持ちで会場に向かいました。看護学科の授業風景、実習、卒業式に袴を着て一緒に写真を撮ったあの日を今でも鮮明に覚えています。「あれからもう20年、信じられないよね～」と話しながら、同期会は始まりました。恩師の先生方と1期生に再会し、皆様の変わらない雰囲気がとても嬉しく楽しいひとときでした。

10年前の同期会では、結婚、出産、転職などで環境が変わる中、それでも看護職の経験を積まなければと一生懸命に頑張っている皆様の姿に、私は刺激を受けていました。私も当時は仕事と育児に奮闘し、毎日が本当に忙しかったなあと思い出します。幼かった子ども達は中高生になり手がかからなくなった分、保健師の仕事が楽しめる

ようになり、最近は大学院で学び直しています。環境の変化も、育児も、経験したこと全てが肥しになる保健師の仕事っていいな、看護学科で学べて良かったなと感じています。看護学科開設当時の先生方の思いを拝聴し、1期生を大切に育てて下さったことに感謝の気持ちで一杯になりました。

今回の同期会は、家庭を守っている方、育児をしながらゆったりと仕事をしている方、キャリアを重ねている方など様々でしたが、10年前の一生懸命な生活ではなく、自身の生活を自分のペースで楽しんでいるようなゆとりを感じました。次回開催も楽しみです。

最後に、湖医会事務局の方々、幹事の皆様、素敵な同期会をありがとうございました。

卒後20年同期会に参加して



高城 智圭 (看1期)



出村 なつみ (看1期)

平成30年11月24日、紅葉シーズン真っ盛りの京都に、7人の先生方と22人の看護1期生が集い、卒後20年同期会が開催されました。

案内を手にしたときから、わくわく感にじっとしていらなかったのは私だけ?当日が近づくとつれ、楽しみだけのわくわく感に妙なドキドキ感が加わり…。当日まで忙しい感情の変化でした(笑)。

みんなの顔を見た途端、大学時代の空気、感情、その時聴いていた音楽など一瞬でよみがえり、懐かしさで胸がいっぱいになりました。大学時代の出来事はきつといいことも辛かったこともたくさんあっただろうけど、思い出すのは笑えることばかり。思い起こせば私たち1期生は、ないないづくし、様々なことを自らが切り拓いていかなければならない中で過ごしました。だからなのか、そもそもの気質なのか、先生方たちからは「とても自己主張が強く、個性的。でも面白い学年」と言われてきました。同期会当日にも同じ言葉をいただき、いつも温かく見守ってくださっていたことを思い出しました。あらためて同級生、先生方に恵まれた4年間であったことを実感しました。

今、同級生たちはいろいろな道でそれぞれの生活を送っています。それぞれが大変なことも抱えているだろうけど、大変さを感じさせないみんなの笑顔にパワーをもらいました。次回の同窓会までがんばれそうです。ありがとう。

最後に。忙しい中、幹事をしてくれた子たちに心から感謝します。

同期会の案内を頂いて、とても楽しみな反面、少し緊張もしました。顔が分かるかな、分かってもらえるかなと心配しながら会場へ向かいましたが、全く心配無用で、パッと顔を見た途端に皆と打ち解けていました。

卒業アルバムを持参したのですが、久しぶりに見るので皆で見入ってしまいました。班ページの手作り感が可愛らしく、各々の人柄が滲み出ている良いアルバムだと自画自賛しました。また、卒後10年の会での近況報告プリントもアルバムと共に保管しておりました。

今回も出欠とコメントをまとめて配って頂いたので、会えなかった友人の事を考えたりしました。皆が多忙な中では一堂に会することは難しいですね。遠方から駆けつけてくれたり、赤ちゃんを抱っこしながらの参加もありました。お開き後も観光へ出かけたり、場所を移してお喋りを続けたり、折角の再会の時間をそれぞれ満喫した様です。

先生から20年前の授業や実習の試行錯誤したお話がありました。普段は思い出すことがなかった自分の体験が次々に呼び起され、たいへん感慨深かったです。記憶の引き出しを開けた気分です。

そして、次の会も継続して開催していけるようにと呼びかけがありました。是非とも参加したいと思います。最後になりましたが、準備や調整に尽力してくれた幹事の皆さん、また湖医会のご協力に感謝します。有意義な時間をありがとうございました。

一期生卒後20年の同期会で



名誉教授

今本喜久子

事務局のご配慮で、21名の参加者と再会を果たし、楽しく嬉しい時間を過ごすことができました。

皆さんが大きな希望を胸に大学を巣立って20年。私の実感は「光陰矢の如し」ですが、皆さんにとっては貴重な経験を積み重ねる長い試練の歳月だったかもしれません。卒業時には、晴れ着姿の皆さんは笑顔を輝かせながら、どこかに一抹の不安も見られました。4年制大学卒の看護師として重すぎる程の期待を背負わされて送り出されたのですから無理もなかったと思います。まだ4大卒の看護師が社会的に認知されない

看護学科一期生の皆さん、卒後20年をお迎える事、おめでとうございます。去る11月24日、JR京都駅ビル内「がんこ」で開催されました同期会に、当時の教員の一人として招待して頂きました。会をお世話して下さった同窓会幹事や事務局

中で、何かにつけて注目され批判を受けて苦労も多かった筈です。諸々のプレッシャーを跳ね返して本来の実力を発揮し、頼もしい4大卒看護師像を築いたことは本当に立派だと思います。

皆さんの近況報告を拝聴する間、旧姓から学生時の面影を手繰り寄せ、今は高中小学生のお子達や乳飲み児の母親としての幸せと職業人としての誇りに満ちた顔を眩しいくらいに感じておりました。今回の同期会に出席できなかった方々も多彩なライフ・イベントを積み重ねて充実した20年を過ごされたと思います。仕事でも私生活でも周りに振り回されず自分流の生き方を探求し、自分の人生を切り開く賢明なアラフォーの女性達だと心底感服致しました。

ところで、私は定年退職10年目。専門学校の授業をほんの一部担当するだけで、日々2匹の犬に癒されて過ごしています。これから先、寄る年波を生き延びることは厳しいに違いありません。それでも、次の10年後に皆さんの努力が大きく結実したことをこの目で確かめ称えたいと願っています。

20周年同期会に参加して

今回、看護学科第1期生卒後20周年同期会に参加させていただきました。

9月に白石さんから同期会が開催されるというメールをいただいたとき、最初に思ったのは、1期生が卒業されてからもう20年も経ったのかという驚きでした。

当日の同期会では、1期生の方々とは卒業されてから全くお会いしていないため、会ったとしても誰かわからないのではないのかという私が抱いた不安は杞憂にすぎず、お会いすると次々に在学していた時のことを思い出し、話題が尽きませんでした。参加された方々から大学卒業後の人生の話があり、それぞれに道は違えど、滋賀医大で学んだことが土台としてしっかり根付い

ていることが確かに感じられました。2時間という予定時間を大幅に超過して閉会となりましたが、非常に楽しい時間であり、もっと話しをしたいと思います。

次は10年後、今回お会いした方々だけでなく、お会いできなかった方々にもお会いできることを楽しみにしています。

今回の同期会開催にあたり、諸事万端にわたりお世話くださいました幹事や「湖医会」事務局の方々に、心からの感謝を申しあげます。



国立看護大学校看護学部
准教授 水野 正之

若鮎のあまたに分かれて上りけり

筑波大学医学医療系 准教授 浅野 美礼



最後に京都に来たのはいつだったか、この数年来では思い出せない。10年前の同期会以来かもしれない。よい季節の連休で駅はたいへんな混雑だった。迷いながら前回と同じ会場の店に着いた。

40代前半の卒業生たちは、子育てルーキーの人もいればもう何人も生んだベテランや子の巣立ちが近くなってきた人もいるだろう、仕事も円熟期で面白忙しいだろう。残念ながら欠席となった人も多いのだろうが、それでも盛会になった。姓がちょっとややこしい事情の人もいたようだが、みんなとてもきれいだった。公私とも充実しているに違いない。

立派になった彼女たちが学生だったとき、自分がどんなことを伝えられたかあまり自信がないし、彼女たちのい

まの仕事の中にその要素が少しでも残って役にたっているのかどうかはわからない。ただ、当時でもおそらく機会があれば言ったことがあるはずで、現在でも学部1・2年生の基礎看護の授業でよく話すことがある。「看護はArtです」という言葉で、自分も恩師から何度も聞かされた。この文脈のArtは和訳では技術なのだが、TechniqueでもなくSkillでもない“創造的技術：Art”ってこうだ、ということを経過15年以上も学生たちに説明しながら、自身がようやく納得しつつある。しかし最前線でいまだ活躍している卒業生たちはきっと、日々Artを実践しているに違いない。元気な近況報告を聞きながら自分はそんなことを考えていた。

卒後20年、下天の内を比ぶれば…



小山 智史 (看1期)

卒後20年の同窓会はいかがだったでしょうか。大学時代、気づけば男が学年で一人となったことを、今思うと懐かしく、いい経験だったなあと感じています。現職の大学では、毎年10人前後の男子学生が入学してきます。いつかの自分を重ねると、「うらやましい」と思うときもあります。

厚生労働省の「平成16年保健・衛生行政業務報告（衛生行政報告例）結果（就業医療関係者）の概況」によれば、私たち1期生が免許を取得した平成10年の男性看護師数は17,807人、看護師免許取得者の3.0%でした。「平成28年衛生行政報告例（就業医療関係者）の概況」によると、平成28年のそれは84,193人、7.3%とされています。人数でみると約4.7倍、割合でみると約2.4倍になっています。たしかに、実習などで病院に行くと、男性看



護師を見かけることが増えたなど実感しています。

今は看護を学び、語る立場となりました。お世辞にも良い学生ではなかった私が、看護を語るという違和感、あの当時の先生方に対する申し訳なさ、さまざまな因果応報を感じる毎日と戦っています。まあいつの世も同じ。頑張る学生はより頑張り、そうでない方はそれなりに。これからもこのような立場で看護に携わっていくのだらうと思います。

最後になりましたが、1期生の皆様、私が在学当時、在籍しておられた先生方、約20年前大変お世話になりました。何とか元気にやっています。いつの日かお会いした時、思い出話でもできればと思います。またどこかで会いましょう。

やっぱり人とのつながりって素敵

清水恵理子 (看1期)



看護学科にてお世話になりました先生方、また卒業生・在校生の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。平素は、同窓会「湖医会」の活動、「湖都通信看護学科版」の編集に際しまして、事務局ならびにたくさんの方々のお世話になり、誠にありがとうございます。

さて、最近の私はといいますと学生時代と同じく、ただただ一生懸命頑張っていれば何とかなると思って、過ごしていました。しかし、それも許されるのは若いうちだけで、うまくいかずに落ち込んだり、自信を失ったりすることも増えてきました。

仕事は、変わらず「子どもの健康に関わること」というテーマで取り組んでいるつもりですが、自分自身の子育てをして初めてわかることや、その両立に戸惑ったりの毎日です。自分の子どもが熱を出している中、仕事に向かうときの感覚や、思春期の娘に「お母さんは何もわかってない!」と気持ちをぶつけられ、何をやってきたんだろう・・・と感じたりします。珍しく、元気のない私もい

るんだなあと迷ったりしていました。

そんな時、卒後20周年の看護学科同窓会があり、同期のみなさんに逢うことや近況をうかがうことができ、また仕事やプライベートでも同期や恩師の先生にお世話になることができました。温かく受け入れてくれる同期の皆さんの中で、居心地の良い、自分を取り戻す時間となりエネルギーを充電できたような想いです。やっぱり、顔と顔のお付き合い、声を聴くこと、人とのつながりを大切にしていきたいと改めて思いました。

みなさんがいてくださって、出逢ってくださって本当に良かったです。ありがとうございます。

最期になりますが、看護学科の活動に、ご支援・ご指導・ご協力を賜りますすべての皆様に、厚く御礼申し上げますとともに、皆様の益々のご活躍をお祈り申し上げます。

同期3人女子会



吉村 詔子 (看2期)

H30年初秋、滋賀医科大学で一緒に働いていた同期2人とともに伊豆に1泊旅行に行った。約20年ぶり、同期3人の旅行だ。2人とは、新米看護師時代を一緒に過ごし、苦楽を共にし、励ましあってきた長年の友人だ。今までも、数年に1度会ってご飯を食べることはあったが、お互いに子育てや仕事に忙しく、のんびり話をすることはできなかった。

新幹線で合流し伊豆に向かったのだが、会ってすぐに話に花が咲く。子育て、仕事、美容、食、健康、お金のことなど、とにかく思いつくことは全て話題になりそれぞれの話を聞きあう。数年会っていないとは思えないほどすぐに打ちとけあえる、なんとも不思議な関係だ。会話を楽しむ時間をもつのは久しぶりであり、ホッとする時間をすごした。

さて、私は現在、静岡県袋井市に開業した「よしむら整形外科」で働いている。大学卒業後滋賀医科大学

付属病院で3年間働き退職。結婚し、しばらくは3人の子育てに専念をしていたが、縁あり昨年春に夫が医院を開業した。子育て中心生活から一変、医院の経営、看護師、事務など多岐に渡って仕事をこなす必要があり、慌ただしい生活を送っている。何事も手探りの状態で正解がなく大変だが、周りの人に支えられ、悩みも少なく毎日充実した生活をしているように思う。

そんな私だがストレスは少なからずあったようで今回の旅行では一番愚痴ってしまった。

いつのまにか日々の環境に染まりストレスをためていた自分を解き放つ素晴らしいものになった。2人は、ありのままの私を認めてくれる大切な存在だ。来年も必ず旅行をしようと約束して新幹線をおりた。次の旅行を心待ちにしながら、毎日を頑張っていこうと思う。



新たなスタートをきって



福家 妙子 (看5期)



私は本学を17年前に卒業しました。看護学生であったときは、あまり真面目な学生ではなく、授業や実習への積極性も乏しく、自分で看護職になることを決めたのに

いやいや勉強していたと思います。本学を卒業して、就職して助産師として働いていく中で、仕事の魅力と厳しさを知りました。自分が妊娠、出産を経験し、子育てを始めてからは、育児と仕事の両立に悩むときもありました。育児と仕事の両立は想像していたよりもハードであり、毎日クタクタに疲れます。でも自分が妊娠、出産、育児を経験することができたため、助産師という仕事がより母子にとって必要であり、やりがいのある仕事だということがわかりました。子どもができてからは、独身のときのように遅くまで残業をしたり、夜勤をしたりといった生活を送ることは難しくなりました。でも仕事はライフステージの中でいつも100%ではなく、自分の生活に合わせて以前の70%くらいしかできない時期もあること、その中で自分の助

産師としての知識や技術をどう高めていくことができるのか考えるようになりました。

2018年の春からは17年ぶりに大学院生として、本学に戻ってきました。勉強が好きではなかった私が、わざわざお金と時間をかけて、学びたいという気持ちが沸いて、再び本学で学生をしていることが自分でも不思議です。大学院生活では、懐かしい看護学科の同期と再会したり、大学院の仲間とディスカッションをして刺激を受けたり、研究について担当の先生に丁寧にご指導頂いたり、とても充実して楽しい日々です。学生生活と子育てとを両立できるのか、入学する前は不安でしたが、思い切って踏み出してよかったと感じています。自分の理想の助産師像に近づけるよう、本学の恵まれた環境で学んでいこうと思います。

想定外。でも楽しい



滋賀医科大学医学部附属病院
腫瘍センターがん看護専門看護師
木村 由梨 (看6期)

2003年に滋賀医大を卒業してから十数年。卒後、附属病院の外科病棟で働き始めた頃は、まさに必死のパッチだったなーと懐かしく思います。当時は毎日が全力疾走でしたが、気持ちを分かり合える同僚や頼もしい先輩に支えられながら、気づけば自分が先輩になり後輩を指導していたり、

やってもやっても100%にはならない看護にちょっと無力感を感じたり。

そんな中で、2011年に一度仕事を離れ大学院に進学しました。翌年にがん看護専門看護師の資格を取り、現在は腫瘍センターで働いています。がん患者さんやそれを支えるスタッフの相談に乗ったり、研修など病院のがん看護の質を上げるための活動をしたりしています。

実は、私は大学時代は「がん」に特別な思い出はな

かったし、就職してからもシビアな病状の患者さんに関わるなんて自分にはできないと思っていたので、自分が「がん看護」に向いていると思ったことはありませんでした。それでも、配属先で出会った患者さん一人一人との関わりが、自分の看護への無力感が、「もっと学びたい」という気持ちに繋がったように思います。

今でも看護としては反省と後悔の繰り返しですが、それでも「相談に来てよかった」「ちょっと気持ちが楽になった」、そんな言葉を頂くと「学びに行ったら良かった」と思います。大学時代には想定してなかった姿ですが、それも「あり」かな～と思うこの頃です。もちろん看護をするのに自分の心の元気も不可欠なので、おいしい物を食べたり旅行に行ったり買い物したり、病院を出たらリフレッシュすることも忘れず楽しんでいきます。まだまだ道半ば、まだどんな想定外なことが起こるか分かりませんが、楽しみながら歩んでいきたいと思っています。



卒業してから7年間



滋賀医科大学医学部附属病院
手術室

角川 愛理 (看15期)

滋賀医科大学医学部看護学科を卒業して次の春でもう8年目を迎えようとしています。

学生の頃は地元から離れたくなくて、卒業後は地元の病院に就職することを夢見ていましたが、大学病院での看護実習を経て、最初は高度医療のある場所で働き、3年ほど経ったら、

そこで学んだ経験を地元で活かそうと思うようになっていたのですが、それがいつしか、大学病院に魅力を感じ7年もお世話になるという形になりました。

学生の頃より手術室看護師希望しておりました。第一希望に手術室を書き、入職して以降ずっと手術室看護

師として職を果たしています。日々めまぐるしく進歩する医療技術の中で、わたしたち手術室看護師も覚えなければならない技術はたくさんあり、新人の頃は、めげそうになりそうなこともありましたが、しかし、それと同時に学べることも多く、新しい知識が増えることで、自分の視野も広がり仕事も楽しくなり、今のいままで働いているのだと思います。1日に様々な疾患で多数の患者様が訪れる手術室だからこそ、それぞれに合わせた看護を行い、患者様の安全・安楽な手術を遂行することが私たちのやりがいでもあります。

中堅の立場となった今、後輩教育・部署への貢献が求められています。このような役割を通して、自分もまだまだ足りないところがあるなど実感をし、成長させていただいている限りです。まだ、地元に戻るのが先になりそうですが、今後も、他職種と連携を行いながら患者様によりよい手術看護を提供していきたいと思っています。

人に教え教えられ



大学を卒業して約6年、がむしゃらに働いてきてもうそんなに月日が経ったのかと驚いています。

私は2013年3月に16期生として大学を卒業後、附属病院の4D病棟ですずっと働いています。消化器外科をはじめたくさんの科が混在する病棟で様々な患者さんを受け持たせていただきました。患者さんが元気に退院される喜びを分かち合ったり、時には悲しい思いをしたりとたくさんの経験をしてきました。

滋賀医科大学医学部附属病院4D病棟

小林満智子 (看16期)



また経験年数が増えるにつれて、新人看護師への教育や学生指導など、教育・指導的な役割を担うことが多くなりました。もともと患者さんに対して退院指導を行ったり、医療的手技の獲得を指導したりすることにやりがいを見出していました。しかし立場が同じ看護師・看護学生に指導をするというのは、こちらの意図が思うように伝えられなかったり、伝えたことが後々に反映されていなかったりと、難しいと感じることが多かったです。

そんな中、教育の偉大な先輩から教わったのが啐啄同時(そったくどうじ)という言葉。啐とは雛が孵化する時の殻中の鳴き声、啄とは親鳥が外から殻をつつくことを言うのだそうです。相手が求める時、相手に指導を

吸収できる余裕ができた時にその分だけ与えることが大切なんだよと教わりました。そこからは指導の際に、新人さん・学生さんの今の状況はどうか、何か気がかりなことがないか注視することでさらに相手にとって有効な指導が出来るようになったのではないかなと思います。

そんな看護師人生ですが、現在は結婚・出産を経て育児の真っ最中です。生後1ヶ月の乳児に指導は入りませんが、相手のサインを読み取っておむつ？

お腹すいた？抱っこ？と、適切な時に適切な援助を出来るよう日々奮闘しています。



総会・滋賀支部会に参加して

滋賀医科大学大学院医学系研究科 修士課程1年 河原めぐみ(看7期)



平成30年8月26日に行われました、湖医会の総会・滋賀支部会に初めて参加させていただきました。今年は総会と滋賀支部会を同日にされ、参加されている方々は医学科の大先輩方が中心でしたが、看護学科の先輩や学生さんもいらっしゃいました。

総会では2017年度の事業報告および2018年度の事業計画について説明がありました。今回参加して初めて、これだけ多くの湖医会の事業を、多忙な先輩方が議論を重ねて運営されていることを知り、感謝の気持ちでいっぱいになりました。その後、滋賀支部会、懇親会があり、若輩者の私にも湖医会のメンバーとしての意見を聞いてくださったり、先輩方の近況などをお聞きたり、有意義な時間となりました。

参加して感じたことは、看護学科の先輩、後輩の参加者が非常に少ないということです。この滋賀支部会など

の交流の場を利用し、お互いの近況やキャリアプラン、現場でのもしくは看護全般におけるトピックスや課題などを、ざっくばらんに話ができたら楽しいだろうと思います。また、学生さんにとっても、上記のような会話を通して自分の課題や学習に対するモチベーションが上がり、学習法や進路選択などについて、直接先輩方に質問できる良い機会になると思います。各学年の同窓会だけでなく、この湖医会の滋賀支部会も情報交換の場所として有意義に利用していくのも一つの手かと思います。

「つながりづくり」のためにも、次回、一緒に参加しませんか？





看護学科交流懇談会に参加して



学友会員
滋賀医科大学臨床看護学講座(母性・助産学)
教授 立岡 弓子

滋賀医科大学に着任して6年目になりました。今回、初めて交流懇談会に参加させていただきました。2回生から4回生が休日にもかかわらず、これまで開催された交流懇談会では、最も多い参加数であったと伺いました。それだけ、近い将来看護職としての進路に不安が大きく、できるだけ皆で共有し合いたいと考えているのだと思いました。そんな情報や想いを共有し合える場として、今回は大成功であったと思います。

私は、保健師・助産師・看護師として旅立つ前の学生の皆様に、どこの就職先が良いとかどのように就職活動するといったメッセージを送りませんでした。私は、どのような保健師・助産師・看護師になりたいのか、その夢が実現できる場所はどこであるのか、自分の目で確かめ決めていくことの大切さを伝えました。高校で看護の道に進むことを決め、滋賀医大の看護学科で学び、いよいよ自分の夢を叶える場所を決められる時期にいる、そんな自分を大切にしてほしいこと、看護の心をもってこの先も歩んで欲しいと願っています。



滋賀医科大学医学部附属病院
看護臨床教育センター 副看護師長
船富 奈々(看5期)

インターンシップもまだない頃に学生生活を送り、口が裂けても真面目であったとはいえない私が役に立つのだろうか……そんなことを思いながら、十数年ぶりに食堂に足を踏み入れました。

真剣に進路を考えている学生さん達の姿を見て、病院で新人看護師を迎え入れる立場として「ここで働きたい!と選んでもらえる職場とは?」と、逆に考える機会をいただきました。就活や国試対策の具体的なアドバイスはできませんでしたが、代わりに、看護師という職業を通して私は教育に携わっていること、看護師といってもいろんな役割や働き方があり、いろいろあってどれも良いのだとお話しました。実際、他の卒業生も、病院から訪問看護へフィールドを変えて働いている人や、臨床経験を積んだのち教員になっている人など様々で、その道を選んだ理由については、私も興味深く聞かせていただきました。学生さんにとっては、就活と共に将来についても考え悩む時期だと思いますが、「看護者としてのあり方」を考える糸口となっていれば幸いです。

この度は貴重な機会をいただきありがとうございました。



看護学科交流懇談会 担当 横田 祐子(看護学科4年)

今回、交流懇談会を通して様々な形で看護職として活躍されている先生、卒業生の先輩方のお話を聞くことができました。看護師、看護教員をされている先輩方の現在に至るまでの活躍の実際を聞かせていただくことで、それぞれの具体的な内容や魅力、大変さについて知り、卒業後に看護職として働くにあたってのイメージや実感を得ることに繋がりました。

また、就職後のことのみでなく、学生時代の経験談や過ごし方のアドバイスを頂けたことで、残りの学生生活をどのように過ごすか今一度考える機会を得ることができました。特に、4年の学生にとっては就職活動や国家試験などについて疑問や悩みを抱えることも多い時期であるため、今回それらの具体的なお話を直接聞くことができたことで、学生それぞれ疑問や悩みを解消し、より充実した学生生活を送るヒントを得ることができたと思います。

最後になりましたが、今回このような貴重な場を持てたことは、参加した学生にとって非常に有意義なものとなりました。お忙しい中私たちのためにお越しくくださった先輩方をはじめ、交流懇談会を開催するにあたってご協力くださった先生方や「湖医会」の皆様にご心より感謝申し上げます。



第17回湖医会賞受賞記念講演会

2018年10月27日、若鮎祭実行委員会との共催で第17回湖医会賞受賞記念講演会を開催しました。講演に先立ち、今回の受賞者、静岡県立こども病院副院長の猪飼秋夫先生(医8期)に永田会長から賞状及び副賞が授与されました。

「外科医を育てるー自分の足跡を振り返ってー」と題した講演に、参加者からの多数の質疑があつて、猪飼先生には丁寧に対応していただきました。



若鮎祭「模擬店グランプリ」に協賛

第44回若鮎祭は、10月27日、28日に開催されました。湖医会は、学生の企画による「模擬店グランプリ」を協賛し、上位入賞のクラブに永田会長からトロフィと賞品が授与されました。

1位…バドミントン部

2位…ワンダーフォーゲル部

3位…水泳部



納涼企画を開催

暑い季節に試験勉強を頑張っている学生に「涼」を届けようと生協との共催企画として、7月13日、17日の2日間、「かき氷」、「いちごアイス最中」、「イチゴあんみつ」の販売を行いました。



餅つき大会を共催

12月14日、昨年に引き続き生協との共催で「餅つき大会」を福利棟食堂ホールで開催しました。相見副会長のあいさつで始まり、138名もの参加もあって、賑やかに交互に餅をつき出来上がった餅に舌鼓を打っていました。



2019年4月より

湖医会ポータルサイト開設

カレンダー機能、コミュニティ、情報交換、同級生や会員への近況報告などの情報発信、
質問コーナー、就業支援、大学の情報発信など

会員にはIDを配布 登録にてすぐに利用可能!!

問い合わせ／e-mail : koikai@koikai.org

湖医会広報

2018年度「湖医会」総会 議事録

- 日時／2018年8月26日(日) 17:30～18:30
- 場所／ホテルボストンプラザ草津 ケネディルーム

議 題

1. **2017 年度事業報告及び決算見込について**
原案(資料1-1、1-2(1)、(2))のとおり承認された。
2. **2018 年度事業計画及び予算について**
原案(資料2-1、2-2)のとおり承認された。

※ 各資料は「湖医会」HP を参照

会員の現況 (2/1現在) 総数 6,634名

●卒業会員 { (学 部) 5,136名 (医 学 科 3,708名
(大学院) 14名 (看護学科 1,428名)

●学友会員 ————— 92名

●在学会員 1,085名 (学部: 966名、
博士: 99名、修士: 20名)

●特別会員 ————— 307名 (元職員240名
現職員 67名)

会費納入のお願い

看護学科は終身会費制 **終身会費 20,000円!**

これまでに20,000円以上を納入されている方は、終身会員となっています。

20,000円に満たない方はその差額を納入された時点で終身会員となります。

終身会員でないと、広報誌や卒後10年・20年の同期会の案内などがお届けできないことになります。

詳しくは、湖医会事務局までお問い合わせください。

名前・住所・勤務先・メールアドレス等が変更になった場合は、メール
またはファクスで事務局までご連絡ください。



表紙の写真：正門から一般教養棟・基礎研究棟（撮影：学生写真部）